

そうだった。僕達一回生はOBとの登山や沢登りなどに連れて行ってもらった。そこでの沢登りは水をかぶって進んだり、水しぶきをあげて進んでいくのがとても楽しかった。でも、水がなくなって頂上までつめるのは汗がだらだら出てきたり、急斜面などを登ったりするのがしんどいと感じた。でも、夏の合宿の中では一番面白かった。秋合宿や冬合宿などでは川合宿などを行いそれはそれで面白かった。春合宿にも川下りをしたが2月、3月の間のこともあり気温が低くとても寒かった。それに朝起きるとボートが凍っていたり霜が降りていたりした。また僕は結構寒がりであったのでウェットに着替えるのがとても億劫になったりしていた。

こういう具合に一年間を過ごした。それで夏の沢登りの合宿で4回生の先輩が僕より大分重かったのにどんどん行くのはすごいと思い、憧れみたいな



2003年慶良間諸島巡りシーカヤックより

感じでこれからは沢をしたいなあと思った。僕も先輩みたいに後輩に尊敬されるようになりたいと思った。またこういう先輩がすごいとかあんなふうになりたいという憧れがあるから探検部は続いているのだと思いました。それにこの探検部は部員から勧誘されて入ってくるのが少ないと先輩たちが言っていたので、本当に独特な人たちが集まって来て他のクラブとはまた違った感じのするクラブだと思いました。これからもこういう風になれるように努力したいと思いました。

(51代/2回生)

自分の未知への挑戦

塚本麻衣子

私が「探検部」というものを知ったのは高校生のときである。知り合いの大学生が他大学の探検部だったのである。

もともとアウトドア活動が好きで、中学・高校とは部活などであまり打ち込めなかったが、大学生になったら思う存分してみたいとは思っていた。話を聞くうちに探検部への憧れは強まり、探検部に入るために大学に来たと行っても過言ではない。

そしていざ入部し、現在に至る。

話とは大分違っていた。騙されたと思うこと、多々。

しかしこの部で良かったと思うことも多い。普通の学生ではまずありえない経験をしているし、それが全て自分にプラスになっている。

私はカヌー、カヤックがしたい、そう思ってこの部に入部した。少し聞きかじっていたために探検部って何?という疑問を持つこともなく入部した。だから探検とは何か?なんてそれこそ考えたこともなかった。

今回あらためて考えてみると、探検とは「未知なるものを探求すること」という一般論のような答えしか思い浮かばなかった。しかし、実際そういう探検をしているかと言われれば、はいとは言いつらい。そこで今までの合宿を振り返って「探検」とは?と考えたとき、「自分の未知への挑戦」ではないのかと気付いた。

どこであつても初めての者にとっては未知の土地であるし、練習や合宿を重ねる度に、自分はここまでやれた、さらにもっと上まで、さらにさらに…と自分の未知な力をどんどん開拓している。そしてこの自分の周りの小さな未知を乗り越えてゆけば、最後に本当に大きな未知なるものへ挑戦できる日が来るのではないだろうか。

そう考えると一つ一つの合宿を本当に大切にしていかなければならない。ま



2006年夏アラスカ・コバック川遠征

たしっかりした目標を持って普段の練習から計画すべきである。自分にはそれがなかった。非常に悔やまれる。色んなことを体験して、色んな力を付けて、いざというときに選択肢を自ら狭めることのないようにしてほしい。

(50代/3回生)

自分自身やってきた探検とその思い

木下祐作

二〇〇七年九月現在で関西大学探検部に入部してから約三年と五ヶ月になるが、振り返ってみると「色々やってきたなあ」の一言である。

北は北海道、南は西表島と長期休みが来る度に日本中あちこちを駆け回って、挙句の果てには元々行くつもりがなかった海外にまで流れに身を任せて